

答辞

本日は私たち卒業生のために、このような盛大な式典を催して頂き、誠にありがとうございます。ございます。お忙しい中、ご来賓の方々をはじめ、多くの皆様にご臨席を賜り、卒業生一同心より御礼申し上げます。

卒業を迎えるとなると、私たちが日常的に見ていた教室やこの体育館の風景でさえいとおしく感じられ、三年間の様々な出来事が目に浮かんできます。

不安と期待を抱えて迎えた入学式、高校での初めての授業、初めての部活動、初めての双松祭。最初は、学校生活に慣れることに必死でした。

そして二年次になろうとするところから、私たちは「コロナ禍」と言われるこれまで経験したことのない困難な状況と闘いながら大半の高校生活を送ることになりました。

双松祭をはじめ多くの行事が影響を受け、共通の思い出として懐かしく語るはずの

修学旅行さえもやむなく中止となりました。

しかし、私たちはこうした困難な状況でも、昨年の双松祭では、先生方をはじめ多くの方々のご協力のもと、プログラムや団の練習方法などに工夫を加え、思い出に残るすばらしい双松祭にすることができました。試練を乗り越えて達成した喜びは私たちの財産です。厳しい状況の中でも、工夫を凝らし最後までやり遂げたことに、自分たちの成長が感じられました。

三年次の夏の終わり頃から、私たちは自身の進路実現に向けて焦りを感じ始めてきました。そんな私たちに、先生方は親身になつて指導していただきました。時に厳しく、時にやさしく指導してくださった先生方への感謝の思いが尽きません。そして、忘れてならないのは共に同じ教室で過ごした仲間です。それぞれ目標に向かって勉強に励む姿に、私自身も鼓舞され、その姿にまた相手も奮起する。お互いに切磋琢磨する

姿に、人とつながる力を大切にする西高生らしき感じ誇りに思います。

現在も日本をはじめ世界中がコロナ禍にあり、先の見通しが立たない世の中です。不安もあります。私たちはこれからの持続可能な社会の担い手として、地域社会に貢献する志を持ち、これからも努力していく所存です。ピンチをチャンスに、多くの試練を乗り越え人とつながり唐津西高校で学んできたことを誇りとして、これからも情熱をもつて私たち自身の信じる道を歩んでいきます。

最後になりますが、校長先生をはじめ諸先生方、そして家族の皆様、本当にお世話になりました。改めて感謝申し上げますとともに、皆様のこれからのご活躍とご健勝、そして唐津西高校の一層の発展を祈念いたしまして、答辞とさせていただきます。

令和四年三月一日

卒業生代表 三井 一輝